

景況実感調査(2018年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 21日稼働日があったが売上、数量共不振。得意先も同様で、例年も4～6月期は不振だが、年初の期待が大きかっただけに先行きに不安が出て来た。実需の出現が遅れると、仕入れ高、コスト高が続く中で国内店売り市場は新たなフェーズに入ってきてしまう。
- ② 内需は自動車関連を中心にタイト感があり、オリンピック関連も動き出してきたが、下請けまで降りてこない状況で、市況は伸び悩んでいる。このような中、米国の第232条に基づく輸入制限措置が決定され、先行き不透明感が漂っている。
- ③ 在庫は適正水準にあるが、販売が鈍いため不安視している。値上げもしにくい環境にあり苦戦している。追加値上げ発表があっても特別反応もなく、依然として物静かな状況。マクロ的には需要は底堅いが、末端には厳しい状況のため、どうしても温度差がある。

中板

- ① 5月の店売りの動きは4月と代り映え無く、依然として停滞感が漂っている。一方、高炉の供給事情から先々タイト化が更に進むとの見通しも囁かれているが、流通筋では顕著な歯抜けも見られないことから、肌感覚ではまだそうした印象は薄い。そのような状況下、高炉の再々値上げ表明がなされたが、市況面での上昇の後押しになるかどうかは今のところ不明。市況の上昇からユーザー紐付き価格の上昇に結び付けるといふ発想を転換すべきではないか。ユーザー紐付き価格の上昇こそが市況上昇に繋がる強い要因になるべきではないだろうか。

厚板

- ① 建築鉄骨、橋梁、土木、建機、産機など各分野の活動水準が高く、売上数量、売上高とも好調である。しかし、メーカーは更なる追加値上げの構えさえ見せて来ている。

形鋼

- ① 4月、5月ともほぼ変わらぬ営業状況で推移している。前クオーター比では売上高は微減だが、粗利は10%減。メーカーの度重なる値上げによる採算悪化か。今年は、新年度入りによる景気のもたつき感はないが相変わらず建築需要のみ突出している。

II形鋼

- ① 5月の倉出しはマイナスだが、前年同月比ではプラス。5月は連休もあったが、大きな落ち込みはなく、横這い。店売りの販価は変わらず、メーカーの値上げ分の転稼を早急に行う。

異形棒鋼

- ① 新規物件の引合いが少なく、日々の荷動きも低調で、市況は膠着状態。価格は上昇したが粗利益率の低下で月次決算は苦しい。

平鋼

- ① 荷動きは低調だが、建築関連に動きがありそうで期待している。メーカーは強気の姿勢を変えていない。早急に価格転嫁を進めていきたい。
- ② 店売り、物件ともにGW前後から動きが少なくなった。5月後半は少し持ち直したが、月次としては良くなかった。

車量開形鋼

- ① GW明けから店売りが低調のままで、いまだに回復の兆しが無い状況である。
- ② 現在もやや受注量は少ない。7月頃よりオリンピック関連の受注が増すとの中で、期待はある。
- ③ 先月と同様。

鋼管

- ① 前月比数量横這いも日割りでは減少。メーカー値上げ継続も荷動き悪く再販価格値上げに苦慮。
- ② 低調だった配管類の動きがやや上向きつつあり、5月としては例年より良い。
- ③ 例年4～6月は荷動きが落ちるが、今年は傾向としては逆で、荷動き、受注量共に増えている。

構造用鋼

- ① 要動向については、自動車関連・建設機械関連等紐付きを中心に好調を継続している。建設機械は先行き若干の調整が予想されるが、基調としては大きな変化なく推移していくものと思われる。店売りの荷動きは盛り上がりを欠く状態で推移している。メーカーの供給がタイトな状況が続いており、市中在庫は歯抜けサイズが増え、品薄感が更に強まっている。市況については、4月から値上げを実施し、更に6月から追加値上げを実施している。
- ② 3～4月～5月にかけてほぼ横這い。
- ③ メーカー値上げの再販価格への転嫁を行ったため、4月に駆け込みがあったと思う。先月対比では売上、数量ともに落ちている。

磨棒鋼

- ① 自動車、建機、産機を中心に旺盛な需要が継続中。素材となるコイルや棒鋼の調達環境はタイト感が更に増してきている。素材価格の値上げに関しては、運賃コスト上昇分を含めて転嫁できている。

鋼材全般

- ① 5月は4月並みの荷動き。単価を上げようとしても荷動きに比例して上げにくい状態。また、中旬から下旬にかけて動きも活発でなく、6月以降も本当に忙しくなるか疑問。

その他

<スクラップ>

- ① スクラップの発生量は低調だったが、反対に国内メーカー、輸出向け共に集荷意欲は強く、価格も反発。需給バランスの悪い一ヵ月だった。

<金属表面処理加工>

- ① 4月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットも4月と同様に引合い、受注とも活発であったが、納期延期でまとまった物量が次月以降となり、処理量減となった。6月中旬以降、付加価値の高い加工があることから、受注平均単価は上昇の見込み。また、物件物の進捗が安定していることから、6月も高操業で推移しそうである。